

公共交通の取組状況及び今後の方向性について

これまでの目標（目指してきたこと）

《公共交通の充実》

⇒地域ごとのニーズに基づき、鉄道や路線バスを補完するコンパクトな地域内の生活交通を地域との協働により構築する。

◆ 利便性の向上

最寄駅へのアクセス性の向上、買い物・通院など地域内の生活交通の足の確保

◆ 地域コミュニティや地域経済の活性化

多様な社会資源を活かしながら、地域の特性に即した移動サービスの検討を行う中で、地域の賑わいを育む

*根拠：第3次長期総合計画、新 中期的な施策の取組方針、都市マスタープラン
「住みやすく、希望のあるまちをめざして」
⇒通行しやすく便利なまちをめざす（交通）⇒公共交通の充実

➤ 平成18年「市の公共交通に対する基本的な考え方」

市内における交通体系のあり方について、「総合的な交通体系のあり方懇談会」からの提案や各地域の実情、交通課題、市民等の意見などを踏まえて、「市の公共交通に対する基本的な考え方」をまとめた。

◆ 基本的な方針

- ①地域ごとのニーズに基づくコンパクトな地域内の生活交通とこれをつなぐ幹線交通の充実
- ②にじバスの新たな試行運行の開始

◆ 実現のための具体的方針

- ①コンパクトな地域内の生活交通を目指したコミュニティタクシーの運行
- ②にじバスの運行ルート・料金の見直し（平成19年4月～）

実施体制：市民参加、市民協働

➤ にじバス協議会、各地域のコミュニティタクシーを考える会

→地域の課題解決に向けて、市民が主体的にかかわる参加と協働のしくみづくり。

➤ 地域公共交通会議（法定会議）

取組経過

➤ コミュニティバス<にじバス>

コンセプト「コミュニティと経済が元気になる、利用者と地域で支えるバス交通をつくる」

実施時期	内 容
平成16年 1月	試行運行開始
平成19年 5月	運行ルート一部変更、運賃体系変更（大人 100 円→150 円） バス共通カード使用可
平成20年 4月	本運行開始、運賃改定（子ども 100 円→80 円） パスモ・スイカ使用可
平成20年11月	にじバス協議会の設置（11団体：自治会、商店会・商工会、JA等）

➤ コミュニティタクシー<ぶるべー号>

コンセプト「地域ごとのニーズに基づくコンパクトな地域内の生活交通」

実施時期	内 容
平成20年 3月	大沼ルート実証実験運行開始：～平成20年9月（126日間） →住民アンケート調査の結果、平成20年8月運行ルート一部変更
平成20年10月	花小金井ルート実証実験運行開始：～平成21年6月（180日間） →道路渋滞により定時運行が困難なため、ダイヤ改正（30分→40分） やルート一部変更したが、乗車人数が伸びず実証実験で終了
平成21年 9月	大沼ルート試行運行開始
平成22年 5月	栄町ルート実証実験運行開始：～平成23年5月（1年間） →住民アンケート調査の結果、平成22年11月運行ルート一部変更
平成23年 5月	栄町ルート試行運行開始
平成24年 5月	コミュニティバス・コミュニティタクシー間で、回数乗車券と一日乗車券 の共通利用を開始
平成25年11月	鈴木町ルート[第1期]実証実験運行開始：～平成26年3月（82日間）
平成26年 4月	鈴木町ルート[第2期]実証実験運行開始：～平成26年7月（84日間）
平成26年 8月	花小金井南町ルート実証実験運行開始：～平成26年11月（81日間）
平成27年 3月	鈴木町ルート試行運行開始
平成30年 7月	鷹の台駅西側ルート実証実験運行開始：～平成31年1月（122日間）
平成31年 3月	上水本町・一橋ルート試行運行開始：～令和元年 8月（122日間）

➤ 地域との連携・協力

- ・利用促進に向けた各種PR活動の実施
- ・ガスミュージアムで開催された春のお花見会にブース出展
- ・商店会連合会でPRのぼり旗を作成
- ・地元小学校で「コミタクは動くギャラリー」事業を実施
- ・運行開始式で市内企業の協力によりお菓子を記念配布

- ・武蔵野美術大学の学生による運行車両のデザイン
- ・嘉悦大学の学生による運行車両のデザイン
- ・まちめぐりツアーの実施
- ・商店会の協力により、駅から直近停留所までの案内看板の設置
- ・商店会等と連携し、サンクスクーポン（回数乗車券・1日乗車券）の発行

取組成果

- **地域の実情に応じた生活交通の整備・基幹交通網（鉄道・路線バス）の補完**
 - ・高齢者や子育て世代を中心に市民等の交通の利便性を向上
 - ・地域コミュニティや地域経済の活性化（外出支援からつながる効果）
- **地域で支える公共交通 ⇒地域との協働の推進**
 - ・コミュニティバス・コミュニティタクシーの各種利用促進事業の実施
 - ・考える会とともに、地域ニーズを把握しながらコミュニティタクシーの運行ルートを検討
- **コミュニティバス、コミュニティタクシー乗車人数の増加**
 - ・地域が主体となった、各種PR活動の実施
 - ・地域の中で市民の足として定着

公共交通を取り巻く環境の変化

- **利用状況の推移（コミバス・コミタク）※資料参照**
 - ・実証実験運行から乗車人数の増加（認知度の向上）
 - ・利用促進に向けたPR活動の成果により、認知度が向上
- **平成18年度にまとめた市の公共交通に対する考え方との乖離^{かいり}**
 - ・各地域内から青梅街道幹線軸へのアクセスについての考え方
- **社会状況の変化**
 - ・少子高齢化、核家族化、地域関係の希薄化
 - ・ライフスタイルや価値観の多様化
 - ・人口変動（小平市の特徴として、花小金井・鈴木町地域における転入者の増）
 - ・地域の多様なニーズや実情に即した交通手段の整備
 - ・国や各自治体の動向変化
 - （コンパクトシティの形成を目指した公共交通ネットワークの整備）
 - （自動車に依存しない交通環境負荷の低減に係る取組の推進）
- **道路交通事情の変化**
 - ・都市計画道路の整備
 - ・道路交通規制の強化

- ・バス路線の変化（廃止・新規）
 - 乗車率の変動、交通事業者の運転手不足
- ・交通事故の多発（特に高齢者）により、交通安全対策の強化（安全性の確保）
 - 運行路線認可審査、交通管理者による実査 →審査・判断基準がさらに厳しく
- ・交通渋滞による、定時性への影響（遅延の発生）

これからの流れ

➤ 継続的な取組

- ・南西部地域におけるコミュニティタクシーの継続的な運行の検討

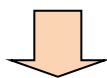
➤ 新たな取組

- ・平成18年に示した市の公共交通に対する基本的な考え方を見直し

次のステップに向けて…

<基本的な考え方を見直しのポイント・視点>

- ・これまでの取組についての総括・検証結果の反映
- ・誰もが安全・安心、快適に移動できる交通体系の実現
- ・市民や地域の要望・意見への対応
- ・市民や地域の関係機関等との参加・協働による検討
- ・福祉的な視点での他部門との連携・協力
- ・広域的な視点での近隣市や民間事業者等との連携・協力
- ・既存の交通手段・交通網の活用
- ・地域活性化、地域交流の促進



これからの移動需要を見据えた、地域特性や市民ニーズに即した交通体系の構築